

英語の動詞は1つの文型でしか用いられるわけではありません。複数の文型で用いられる動詞もあります。つまり、**同じ動詞であっても、文型が異なれば意味が変わるケースが出てくるのです**。こうなると「いちいち動詞の意味を文型ごとに覚えなければならないのか…」と気が遠くなってしまいかもしれませんが、実はそうでもありません。というのは、ある程度、文型ごとに用いられる動詞の意味系統が決まっているからです。簡単な例で確認しましょう。

- ① He **ran** to the restaurant. 「彼はレストランへ走って行った」
 ② He **ran** short of cash. 「彼は現金が足りなくなった」
 ③ He **ran** the restaurant. 「彼はそのレストランを経営していた」

すべてrunの過去形ranが用いられていますが、日本語訳に示したように、runは異なる意味で用いられています。ただし、それぞれの文の文型は異なります。ranの後続の形に注目してみましょう。

- ① He ran to the restaurant.
 S V 前置詞+名詞=副詞句 → 動詞ranを修飾
 ⇨ SVの第1文型

- ② He ran short of cash.
 S V C (short=形容詞(不足している) → 補語)
 ⇨ SVCの第2文型

- ③ He ran the restaurant.
 S V O (restaurant=名詞 → 目的語)
 ⇨ SVOの第3文型

これらは動詞runの多義性によるとも言えますが、同時に文型の違いによる意味の違いであることにも注目する必要があります。なお、①の「前置詞+名詞」のような固まりを「句」と呼びます(この場合は「副詞句」)。(「句」についてはp.034で詳しく扱います)

- SV = 第1文型: 存在・移動系の意味が中心
- SVC = 第2文型: 「...である」(状態)、「...になる」(変化系)、「...に見える・聞こえる」(五感系)が中心
- SVO = 第3文型: 「Oを・に...する」

残念ながら、この中で第3文型(SVO)だけは統一的な意味系統がありません。runはSVOの場合は「Oを経営、運営する」という意味になります。しかし、①SVの場合は移動系の「走る」という意味であるのに対し、②ではshort(不足している)という形容詞、すなわち補語(C)をとるSVCの構造(形容詞は目的語にはなれません)であることから、変化系「...になる」の意味(shortの状態になる→現金が足りなくなる)になるのです。このような意味の違いはすべて、**文型の違いによる動詞の意味の区別がわかっているからこそ理解できると言えます**。これはrunに限りません。2つ例をあげましょう。

■ appear

- ① SVの場合: 「姿を現す」
 ② SVCの場合: 「Cに見える」
 ① He appeared on time. 「彼は時間通りに現れた」
 S V on time (時間通りに) = 副詞句 → appearedを修飾
 ② She appears rich. 「彼女は金持ちそうに見える」
 S V C

■ leave

- ① SVOの場合: 「Oを離れる、去る」
 ② SVO₁O₂の場合: 「O₁にO₂を残す」
 ① He left his wife. 「彼は妻を捨てた」
 S V O
 ② He left his wife a great fortune. 「彼は妻に多くの財産を残した」
 S V O₁ O₂

このようなパターンは他にも数多く存在します。意味の違いを把握するのに文型の理解がいかに重要かをさらに考えていきます。

まとめ

- 文型が変われば、動詞の意味も変わる
- 意味の違いをつかむには文型の理解が必要!
- 同一文型、同一パターンの動詞は意味に共通性がある